

むしやんよか！ 益城の風になれ

第5回益城公認ロードレース大会

町と(一財)熊本陸上競技協会が主催する第5回益城公認ロードレース大会が12月27日、町陸上競技場をスタート・フィニッシュとするコースで開催されました。全8種目の競技に対し、685人が出場。抜けるような青空の中、熱い戦いを繰り広げました。

一般男子の部には、熊本城マラソンで4度の優勝を果たしている古川大晃さんが招待競技者として出場。高校男子の部の園木縁選手と10kmのコースで、最後まで一進一退のデッドヒートを展開しました。



熊本県道高森線を疾走する④古川選手と⑤園木選手



(写真上)顕彰状を受け取った④澤田さん(左下)津森小の授業を視察した大甲区訪問団。児童たちにあいさつする顔金源区長(右下)志賀哲太郎顕彰碑に訪問団全員で献花を行った

志賀哲太郎の功績が未来へとつながる

大甲の聖人・志賀哲太郎に関連したトピック

台湾の教育に尽力し、本町と台湾・台中市大甲区との友好交流の礎を築いた志賀哲太郎が、このたび熊本県近代文化功労者として顕彰され、11月27日に県庁で顕彰式が行われました。この賞は県内で最も古い歴史と権威を持つ顕彰制度で、教育や学術、芸術など、文化の発展に顕著な功績のあった個人・団体に贈られます。

顕彰式には、志賀哲太郎の親族である澤田寛旨さんが出席し、代表として顕彰状と記念品を受け取りました。

また、志賀哲太郎の生誕160周年を記念し、ドキュメンタリードラマの制作やシンポジウムの開催といった事業も行われています。その一環として1月14日、台湾・台中市大甲区の訪問団が益城町を訪れました。

訪問団は、大甲区の児童とオンライン交流を行う津森小を視察した後、学校の近くの志賀哲太郎記念公園に設置された顕彰碑に花を手向けました。

その後、町役場を訪れた訪問団は、町職員との意見交換会を行い、教育・文化・防災などさまざまな分野において、交流を深めることを確認しました。

大甲区の顔金源区長は、「これは単なる交流にとどまらず、国を超えて、心と心を結ぶ機会になると確信しています。今後も友情関係を深め、共に歩んでいきたいです」と、さらなる交流への期待を語りました。

Best Smile
今月のベスト笑顔



野田裕喜選手(写真 ©KASHIWA REYSOL)

松田天馬選手(写真 ©KYOTO.P.S.)



野田
力強い守備はもちろん、自分のパスが攻撃の起点となるようなプレーを心掛けている。僕は身長180センチではなく、スピードも武器ではない。その分、状況判断や予測といった、頭脳的なプレーを常に意識しています。

松田
守備はもちろんどディフェンダーとしては大柄ではなく、スピードも武器ではない。その分、状況判断や予測といった、頭脳的なプレーを常に意識しています。

野田
ムを先導し、ピッチ上では士気を高めるムードメーカーでありたいと思っています。

松田
選手としての特徴と、プレーで心掛けていることを教えてください。



2人からの 読者プレゼント

サイン色紙、サイン入りユニフォーム、サイン入りシューズをそれぞれ1人にプレゼントします。

応募期限 2月25日(水)必着

応募方法 はがきに氏名、住所、電話番号、広報紙への意見・感想、「サッカー選手プレゼント希望」と記入し郵送するか、申し込みフォームで応募

▶応募は1世帯1回までとします。

▶応募多数の場合は抽選とし、当選者発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

問い合わせ・応募先 〒861-2295

益城町役場企画財政課 広報係 ☎ 286-3223

野田
前シーズンは出場機会が少なく悔しい思いをしましたが、好成績を収めたチームの一員として過ごせたことは、非常に良い経験になりました。

野田
来季は自身の活躍でチームを優勝に導きたいです。

松田
足していませんが、個人のプレーには確かに手応えを感じました。チームとしても非常に良い成績を残すことができ、充実したシーズンでした。

野田
前シーズンは出場機会が少なく悔しい思いをしましたが、好成績を収めたチームの一員として過ごせたことは、非常に良い経験になりました。

野田
他の選手のプレーを見て学ぶことです。僕も兄さんありました。あとは、根性ですね！

松田
僕は今でも純粋にサッカーを楽しんでプレーしている感じます。だからこそ、みんなにもまずは心からサッカーを楽しんでほしいです。熊本地震からの復興を進める益城町は、スポーツをする環境としてとても整っています。この素晴らしい環境から、僕が次々と現れる現れることを楽しみにしています。

野田裕喜

まつだてんま
松田天馬

野田
M.F.の松田天馬です。
柏レイソル所属、C.B.



松田
益城町の若い選手に伝えたことはありますか。